



急性心筋梗塞患者における

入院当日もしくは翌日のアスピリン投与率

<項目解説>

アスピリンは抗血小板作用があり、急性心筋梗塞の予後の改善に有効であることが、多くの臨床研究で示されています。これは当然行われてしかるべき診療であり、指標として算出する意義は小さいかもしれませんが、診療プロセスが適切に把握できるかを問う指標でもあります。

<当院の実績>

【平成25年度】	96.0%	(71/74)
【平成26年度】	95.9%	(70/73)
【平成27年度】	96.1%	(74/77)
【平成28年度】	93.2%	(82/88)
【平成29年度】	98.6%	(72/73)

<当院の自己点検評価>

当院は地方・地域センター病院として、医療計画における4疾病5事業について積極的な取り組みを病院目標に掲げ、広範囲な二次・三次医療圏を担っております。

4疾病の中でも急性心筋梗塞は件数も多く、可能な限りPCI（経皮的冠動脈形成術）を施行し「アスピリンの投与」も行っております。わずかな症例で投与が行われていないものについては、出血などのリスクによる可能性があります。

今後も引き続き、24時間体制で急性心筋梗塞に対するPCI等の治療にあたり、同時に「アスピリンの投与」についても出来る限り行っていきたいと考えています。

<定義>

- ・算式のとおり（救急入院のみ）

<算式>

分子：入院当日もしくは翌日までにアスピリンが投与された患者数

分母：入院契機または医療資源病名が「急性心筋梗塞」の患者数

基礎データと解析

～平成29年度 MEDI-ARROWS（ニッセイ情報テクノロジー株式会社）

平成30年度～

SMASH（セコム医療システム株式会社）